

跳ぶ 打つ 走る

私たちも楽しんでいきます

ジョギング

我孫子走友会

毎週日曜日の早朝、我孫子 小坂部由記子さん(四四)は、市の手賀沼のほとりの遊歩道 夫の肇さん(四七)に刺激され、カフフルなユニホーム姿で入会した。肇さんは箱根駅伝の二団が走り抜ける。ジョギングで専修大のアンカーとしてなうを楽しむ「我孫子走友会」らしい。由記子さんは、声援を「中川繁男会長(五二)、会員送ったこともある。今では走る四十人」のメンバーだ。走ることへの情熱は、肇さんに負けことを日課にしている人たちが、いかに大きく膨らんでいる。が、中川さんの呼びかけに結 「走友会」のクリスマスチャレン成、今年で八年目。このうち、セン」の異名をとるのが手嶋女性会員は十人。二百斤、五テツ子さん(四九)。肩の骨を百斤を走るのがやとだった折り、そのリハビリのために 夫の徳行さん(五一)と走るようになったが、異名通り、各人たちが、めきめきと力をつ 種ロードレースで優勝をさらけ、各種大会で大活躍。「男」っている。

性はむしろ押され気味です。「走る」はとにかく健康と、中川会長以下、男性会員の「源」と、全員が口をそろえはあっさりとして、ウーマン・パ。年に一回、チームを作っ「ワ」にかぶとを脱ぐ。 手賀沼の周辺を駅伝形式で

鳥海カネさん(五五)と女子 競うのが秋の行事になってい大生の幸子さん(二二)は親子。今年が女子チームの記録会員。小学生だった幸子さんがさらに伸びたのが目立った。を鍛えようと二緒に走り始め、「おめでとう。ウーマン・パ青梅マラソンにも出場するよワ」競技のあと、野っ原ようになり、来年、ホノルルマで開いた「打ち上げ式」で歓ランにぞろぞろと出るのが夢。声が上がった。



中川会長を混じえて手賀沼のほとりをジョギングする「走友会」の女性メンバー